

# 天理大学 (所在地：奈良県天理市)

## 事業名

知的障害者を中心とした参加のための生涯学習ネットワークの創出

## 主な連携先

天理市（社会福祉課・教育委員会）、障害児者支援施設あおぞら倶楽部、社会福祉法人だるま会他

## 主な対象

学校卒業後の知的障害者

## 事業の趣旨・目的

大学・行政・地域団体等の連携・協働を通じて地域の生涯学習の場と機会を一層充実させる。特にプログラムをつくるプロセスを障害のある人たちと一緒に進めるという「参加」の考え方を重視し、学生教育・学生サークルと連動した大学ならではの事業展開を目指す。

## 事業実施体制

天理市（社会福祉課・教育委員会）、奈良県教育委員会、障害児者支援施設あおぞら倶楽部、社会福祉法人だるま会、特定非営利活動法人誠優会、奈良県立二階堂養護学校教員、天理大学教員・学生で連携協議会を構成し、事業の内容や進め方に関する情報共有・意見交換を重ねた。

## 学習プログラムの内容

### ① 出前ゼミ—大学生と一緒に学ぼう！—

- ・ 障害のある人と大学生と一緒に学び、研究するプログラム
- ・ 私の「好き」を伝える個人研究、グループ活動「あおぞら倶楽部のことを聞かせてください」

### ② だるま会おしゃべりサロン

- ・ 障害のある人と大学生とが互いの暮らしのことを語り合いながら、みんなで楽しむ活動を自分たちの手で作っていくプログラム
- ・ フィンランド発祥の「モルック」のアレンジ、秋の大学構内散策、オンライン交流などに取り組んだ。

## 研究の成果と課題

- ・ 学習プログラムの実施においては、「できる／できない」といった区別が焦点化されない、安心と信頼に基づく環境が重要であることが明らかになった。また、対話を通じて「もっとつながりたい、やってみたい」という主体性を支え、障害のある人のプログラムづくりへの参加を一步步進めることができた。
- ・ 連携協議会や個別の意見交換を通じて、大学ならではのアクション（学生との協働、生涯教育専攻の実習科目としての展開、寄附講座への発展の可能性）について検討することができた。
- ・ コロナ禍の影響下でもつながりを絶やさないためにも、安全・安心な事業継続、デジタルデバイドの解消等も課題である。



出前ゼミの研究風景 おしゃべりサロンの活動 屋外でモルックを楽しむ

## その他研究の詳細など

成果共有のための拡大連携協議会（学校卒業後の学びの場づくりを考える交流会）の開催報告 ▶  
<https://www.tenri-u.ac.jp/topics/q3tncs000023jqgw.html>

